

肌寒さを感じるこの頃です。短くなった秋を楽しみたいと思っても、はや黄砂、PM2.5 による大気汚染が押し寄せてきています。かつてのように、おいしい秋の空気を胸一杯に吸い込み、サンマやきのこなどで秋の味覚を安心して楽しめる日は来るのでしょうか。

福島第一原発の放射能汚染水漏れは、ますます深刻な事態となっています。`完全ブロック`も`コントロール`もされておらず、東電も政府も信じられないほど無責任です。汚染水を垂れ流しながら、健康被害は無いとしています。

27年目のチェルノブイリ原発周辺健康実態を視察された医師は、原発から70Km、1.3ミリシーベルト/年（関東地方にもある低汚染地域）では、貧血、免疫不全、風邪をひきやすい、1時間の授業がもたず短縮授業をしている、下校後はすぐ横になる、健康な子供は1~2%しかいないといっています。（家庭栄養研究会山崎万里氏レポートより）

このような症状を訴える子供たちは、福島原発から500Km以上離れている当診にも来られます。それは、これまで何度か書きましたように放射性セシウムの内部被曝と放射性セシウムのアレルギー反応が原因と思われるのです。食物や産地を選ぶ事と、食材の除染をする事で、症状はほとんど良くなります。さらに、カリウムの多いものを食べたり、抗アレルギー剤やステロイド外用剤、漢方薬など様々な治療も、その人に合うものを選べば、とても有効です。

前回の、750名の調査データを別の角度から見ましたら、次のことが判明しました。

1. 食物、吸入性、化学物質の3種ともにアレルギーを持つ人のうち、65%の人が、放射性セシウムにもアレルギーをおこしていました。
2. 食物、吸入性、化学物質それぞれ単独のアレルギーの場合は、40~50%の人が、放射性セシウムにもアレルギーをおこしていました。
3. 他に何のアレルギーも無い人の場合、全体の2.7%に放射性セシウムのみアレルギーがありました。

何らかのアレルギーを持っている人は、全くアレルギーを持っていない人と比べて、放射性セシウムに対するアレルギーを、格段におこしやすく、アレルギーが重症の人程、放射性セシウムにも過敏になっていることがわかりました。

魚介類や農産物などは、汚染レベルを定期的に1ベクレルに至るまで測定し、すべてを公表することは、最低限必要なことです。`風評被害`などとごまかしている場合ではないのです。

そして、汚染された食材をどのようにすれば除染ができ、安全に、おいしく食べられるのか、関係者が協力し、調査研究し公表してほしいと思います。私たちは否応なく放射能汚染時代を生きていかねばなりません。どのように、被害を最小にし、どのように被害に対処すればよいのか、有効な対応策を明らかにすることが、各々の専門家や医療関係者の焦眉の課題であると思います。